
◇関連資料
委員会資料

双方向コンテンツ委員会
(平成21～23年度 開催実績)

目次

ページ番号

[委員会]

平成21年度

平成21年度 双方向コンテンツ委員会 委員名簿	2
第1回 双方向コンテンツ委員会 12月 8日(火)	3
第2回 双方向コンテンツ委員会 3月 4日(木)	6

平成22年度

平成22年度 双方向コンテンツ委員会 委員名簿	11
第1回 双方向コンテンツ委員会 6月 4日(金)	12
第2回 双方向コンテンツ委員会 10月 5日(火)	16
第3回 双方向コンテンツ委員会 12月22日(水)	18

平成23年度

平成23年度 双方向コンテンツ委員会 委員名簿	23
第1回 双方向コンテンツ委員会 6月17日(金)	24
第2回 双方向コンテンツ委員会 11月25日(金)	29
第3回 双方向コンテンツ委員会 2月14日(火)	35
連携校15大学のテレビ会議システム設置教室	41

[イベント]

平成23年度

大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウム	44
-----------------------------------	----

平成21年度 双方向コンテンツ委員会 委員名簿

◎：委員長

大学名	委員氏名	所属・職名
岡山大学	川本 平山	教育開発センター 教授
	簗島 素子	学務部 学務企画課 企画室 専門職員
岡山県立大学	子野日 俊夫	デザイン学部 教授
	倉田 太吾	事務局 総務課 主幹
岡山学院大学	河崎 雅人	キャリア実践学科 教授
岡山商科大学	大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長
	小松原 実	情報教育センター長
岡山理科大学	大西 荘一	情報科学科 教授
	竹内 渉	建築学科 教授
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授
	虫明 基	自然科学 准教授
川崎医療福祉大学	安藤 正人	副学長
環太平洋大学	柿原 聖治	次世代教育学部 教授
吉備国際大学	今村 俊介	社会福祉学部 子ども福祉学科 講師
	佐藤 匡	社会学部 ビジネスコミュニケーション学科 教授
倉敷芸術科学大学	村山 公保	産業科学技術学部 教授
	忠政 慎也	教務部 課長
くらしき作陽大学	加藤 充美	音楽学部 教授
	木村 万里子	食文化学部 講師
山陽学園大学	片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授
就実大学	片岡 洋行	薬学科 教授、教務部長
	福場 光代	教務課 課長
	桑原 和美	人文科学部 総合歴史学科 教授
中国学園大学	福森 護	情報ビジネス学科 教授
	村松 敬生	教務課 課長補佐
ノートルダム清心女子大学	山根 道公	キリスト教文化研究所 准教授

第1回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成21年12月8日(火) 14:15～16:00

2. 場 所 岡山商科大学 7号館6階763教室

3. 参加者 委員会担当委員、取組担当、事務担当、他関係者

4. 議 題

(1) 挨拶

① 岡山商科大学 井尻 昭夫 学長

② 岡山理科大学 大学教育連携センター 木村 宏 センター長

③ 岡山商科大学 岡山商科大学オフィス 大崎 紘一 室長(委員長)

(2) 委員紹介

(3) 導入機器について、質疑応答

(4) 双方向コンテンツについて

(5) 学則・規程等について

(6) 著作権の利用許諾書について

(7) その他、質疑応答

出席者一覧

○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山大学	○ 川本 平山	教育開発センター 教授	○
	○ 簗島 素子	学務部 学務企画課 企画室 専門職員	×
	■ 橋本 勝	教育開発センター 教授	○
	■ 長瀧 寛之	教育開発センター 助教	○
	● 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	○
	■ 小林 祐也	事務担当	○
	■ 小池 泰之	学務情報システム開発室 専門職員	○
岡山県立大学	○ 子野日 俊夫	デザイン学部 教授	×
	○ 倉田 太吾	主幹	○
	● 糸島 英美	主任	○
岡山商科大学	○ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	情報教育センター長	○
	■ 伍賀 千恵	教学部 教務課 係長	○
	■ 小笠原 均	事務局長	○

	■ 中村 裕	総務企画課 主任	○
	■ 荒木 智子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 大西 莊一	教授	○
	○ 竹内 渉	教授	○
	■ 木村 宏	大学教育連携センター長	○
	■ 佐藤 大介	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	×
	○ 虫明 基	准教授	○
川崎医療福祉大学	○ 安藤 正人	副学長	○
環太平洋大学	○ 柿原 聖治	次世代教育学部 教授	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	○
	○ 忠政 慎也	教務課長	○
くらしき作陽大学	○ 加藤 充美	教授	○
	○ 木村 万里子	食文化学部 講師	×
山陽学園大学	○ 片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授	×
	● 田中 直喜	教務課 主任	○
就実大学	○ 片岡 洋行	教務部長	○
	○ 福場 光代	教務課長	○
	○ 桑原 和美	人文科学部 総合歴史学科 教授	×
中国学園大学	○ 福森 護	教授	○
	○ 村松 敬生	課長補佐	○
	■ 古谷 俊爾	講師	○
ノートルダム清心女子大学	○ 山根 道公	キリスト教文化研究所 准教授	×

第1回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成21年12月8日（火）14：15～16：00

場 所：岡山商科大学 7号館6階763教室

(1) 挨拶

委員会開催に先立ち、岡山商科大学 井尻学長、大学教育連携センター 木村センター長、岡山商科大学オフィス 大崎室長から挨拶があった。

(2) 委員紹介

委員各自から自己紹介が行われた。

(3) 導入機器についての質疑応答

委員会に先立ち行われたデモにおいて質疑応答が行われた。

(4) 双方向コンテンツについて

大崎室長が、別紙資料に基づき、以下の説明を行った。

- ① 講義時間が各大学で異なること、岡山商科大学と同一時間は5大学であること。
- ② 岡山商科大学講義時間から遅延して開始する大学には、講義冒頭の録画物を講義後に配信する予定であること。また、先行する大学は、当該講義の前後も考慮し、受講可能な学生のみが受けられること、また、その教室利用についてはご配慮いただきたい。
- ③ 各大学で異なる、開講時期及び試験期間については、今後対応を検討する。
- ④ 各大学において、双方向コンテンツとして提供できる講義を連絡していただきたい。

(主な意見)

(a) 倉敷芸術科学大学の倉敷まちづくり科目は、学外での講義が予定されており、すべての日程は配信できない。(倉敷芸術科学大学 村山委員)

(b) VODではどうか。(大学教育連携センター 木村センター長)

- ⑤ 双方向コンテンツ委員会の開催にあたって、テレビ会議システムが利用可能であれば利用したい。

岡山理科大学、木村大学教育連携センター長から、単位互換について、大学コンソーシアム岡山の規定を利用して単位互換に対する対応を行うことについて、12月9日(水)の同運営委員会において緊急提案を行うことの説明があった。

大崎室長から、来年度の各大学の開講時期やシラバスについての資料の提出依頼を今後させていただく、との説明があった。

(5) 学則・規程について

大崎室長から、別紙岡山理科大規程及び岡山商科大学規程に基づいて説明があった。

(主な質疑)

(Q1) 岡山理科大学学則等の「学則第11条2項でのメディアを利用して行う授業に関する規程」の定義について、VODでも同時双方向として取り扱うのか。

(A1) 第2条の(1)は双方向メディアについての規程であり、(2)がVODについての規定が書かれている。(岡山理科大学 大西委員)

(Q2) 出欠及び成績評価についてはどうか。

(A2) 出席管理は受信大学で、成績評価は講義担当教員が行うことを予定している。資料の送受信については慎重に行う。(大崎室長)

(6) 著作権の利用許諾について

大崎室長から、①岡山商科大学「経営学特殊講義I・II」では、録画物の利用許諾は得ているが配付資料の許諾を得ていないので、配布には配慮が必要であること、②著作権の利用許諾については、岡山オルガノンが権利主体になれないので、各大

学で取り交わす必要があることの説明があった。

岡山理科大学 大西委員から、岡山理科大学においては、JNSAの講師の場合、VODの著作権は岡山理科大学にあり、内容（講義資料なども）についてはJNSAにあるという協定を結んでおり、科学T r yアングル岡山のVODについては、撮影許諾、VOD制作許諾、VOD利用許諾の3段階による確認を行っている、との説明があった。

(7) その他

大崎室長から、次回の本委員会は3月の開催を予定することの説明があった。

(主な質疑)

(Q1) 遠隔講義システムを各種イベントに利用してはどうか。

(A1) FD・SDへの利用も検討されるが、大学教育連携センターで検討いただきたい。

(大崎室長)

第2回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成22年3月4日(木) 14:00～16:00

2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

3. 参加者 委員会担当委員、取組担当、事務担当、他関係者

4. 議 題

(1) 岡山オルガノンにおける双方向ライブ講義について 【資料1】

(2) 平成22年度ライブ講義配信科目の実施と運用について

【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】

① 他大学の受講生となるための手続きについて

② 各大学の担当者が行う業務について

③ 受信する大学の担当者の業務について

④ 配信する大学の担当者の業務について

(3) 講義配信におけるレポート回収とPCの利用について 【資料3-1】【資料3-2】

① 講義レポートの入力と回収方法について

② 機器の運用について

(4) 平成23年度「岡山オルガノン計画」について

(5) その他・質疑応答

【資料1】 …… 「岡山オルガノンにおける双方向ライブ講義について」

【資料2-1】 …… 「2010年度募集要項」

【資料2-2】 …… 「平成22年度ライブ講義配信科目」

【資料2-3】 …… 「テレビ会議システムの運用について(案)」

【資料 3-1】 「講義レポートの入力と回収方法について」

【資料 3-2】 「岡山オルガノンPCについて」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山県立大学	○ 子野日 俊夫	デザイン学部 教授	×
	○ 倉田 太吾	事務局 総務課 主幹	○
岡山学院大学	○ 河崎 雅人	キャリア実践学科 教授	×
	● 竹中 一平	講師	○
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	情報教育センター長	○
	■ 中村 裕	総務企画課 主任	○
	■ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
岡山理科大学	■ 荒木 智子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
	○ 大西 荘一	情報科学科 教授	○
	○ 竹内 渉	建築学科 教授	×
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
川崎医科大学	● 佐藤 大介	大学教育連携センター コーディネーター	○
	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	○
川崎医療福祉大学	○ 安藤 正人	副学長	○
環太平洋大学	○ 柿原 聖治	次世代教育学部 教授	○
吉備国際大学	○ 今村 俊介	社会福祉学部 子ども福祉学科 講師	○
	○ 佐藤 匡	社会学部 ビジネスコミュニケーション学科 教授	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	○
	○ 忠政 慎也	教務部 課長	○
くらしき作陽大学	○ 加藤 充美	音楽学部 教授	○
	○ 木村 万里子	食文化学部 講師	○
山陽学園大学	○ 片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授	○
中国学園大学	○ 福森 護	情報ビジネス学科 教授	○
	○ 村松 敬生	教務課 課長補佐	○

	■ 古谷 俊爾	講師	○
ノートルダム清心 女子大学	○ 山根 道公	キリスト教文化研究所 准教授	×
	● 加藤 周一	情報機器教育支援センター	○

ライブ会議出席者一覧

大学名	氏名	所属・職名	出欠
岡山大学	○ 川本 平山	教育開発センター 教授	×
	○ 簗島 素子	学務部 学務企画課 企画室 専門職員	○
	■ 天野 憲樹	教育開発センター 准教授	○
	■ 長瀧 寛之	教育開発センター 助教	○
	● 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	○
	■ 小池 泰之	学務情報システム開発室 専門職員	○
川崎医科大学	○ 虫明 基	自然科学 准教授	○
就実大学	○ 桑原 和美	人文科学部 総合歴史学科 教授	×
	○ 片岡 洋行	薬学科 教授、教務部長	○
	○ 福場 光代	教務課 課長	○

第2回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成22年3月4日（木）14：00～16：00

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

(1) 挨拶

委員会開催に先立ち、岡山商科大学 井尻学長、大学教育連携センター木村センター長から挨拶があった。

(2) 委員長の選出

岡山商科大学オフィス 矢延コーディネーターより大崎オフィス室長が委員長を務めてもよいか提案がなされ、これが了承された。

(3) 岡山オルガノンにおける双方向ライブ講義について

大崎委員長が、別紙資料に基づき、以下の説明を行った。

- ① テレビ会議システムを介する双方向ライブ講義の目的は、学部学生に対しての講義に係る方法を開発すること、教職員や学生の交流の深化であること。
- ② テレビ会議システムの構成は、立命館大学とコンソーシアム・福岡を視察しての感想から、学部学生の講義を中心とするので15大学は同一とする。内容は、表示装置2台、カメラ2台、講義室は出来るだけ固定とする。
- ③ 学部学生のためのライブ配信講義法を確立する必要がある、以下の点について説明

があった。

(a) 講義開始時間の違いについて

経営学特殊講義では30分遅れて始まる大学へは録画したものを講義後に送る予定である。

(b) 講義の仕方について

講義の途中で全大学から質問を受けるなど、これから開発していく必要がある。

(c) 出席の取り方について、平成22年度前期は各大学に出席表を配布し、テレビ会議システムの管理をして頂く方に管理してもらう。その他の提案として、携帯電話を利用する、PCを利用する、というものがあつた。

(追加説明)

TAを置く予定なので、その人に出欠の確認を行ってもらふ予定である。(川崎医療福祉大学 安藤委員)

(d) 試験について

平成22年度前期は2科目ともレポートによる評価で行う。試験を行うのであればどうすればいいのか。

(e) PCの活用について、経営学特殊講義では専用のシステムを使ってレポート回収と出席管理を行う。e-Learning以外でも活用方法があるのではないかな。

(4) 平成22年度ライブ講義配信科目の実施と運用について

① 他大学の受講生となるための手続きについて

大崎委員長が、別紙資料に基づき以下の説明を行った。

(a) 履修手続きは所属大学で行いたい。

(b) 経営学特殊講義は4月19日にライブ講義の開講式を行いプレスリリースするので、オルガノン全体としてもそれより前にプレスリリースをして欲しい。

(追加説明)

「倉敷まちづくり基礎論」、「倉敷まちづくり実践論」については出来れば1年生が受講し、各定員が50名である。(倉敷芸術科学大学 村山委員)

(c) 単位互換科目履修願については、HPより各学生がダウンロードして所属大学に提出してもらふようにしたい。

② 各大学の担当者が行う業務について

大崎委員長が、別紙資料に基づき以下の説明を行った。

(a) 岡山オルガノンのHPを利用して講義資料の受け渡しを行うため、操作方法等の説明を行った。

(追加説明)

MOMOTAROサーバを利用すれば、資料の受け渡しも出欠の確認も出来る。(岡山理科大学 大西委員)

③ 受信側、配信側の各大学の担当者の業務について

岡山商科大学オフィス 矢延コーディネーターが、別紙資料に基づき以下の説明を行った。

(a) テレビ会議システムの運用における取扱い方法と注意事項について。

(b) アノテーションの利用方法について。

(主な質疑)

(Q 1) トラブルを前提に対応を考えてもらいたい。また、その対応に掲示板や携帯電話などツールについても確立しておく必要があるのではないか。(倉敷芸術科学大学 村山委員)

(A 1) 岡山商科大学で起きたトラブルのマニュアルを作成して各大学にお送りし、それに各大学で起こったトラブルを加えてもらいまとめたものを作成する。また、トラブル時連絡方法はメーリングリストを活用し、必要がある人は携帯電話へメールを飛ばす設定をしてもらう。(大崎委員長)

(Q 2) 30分遅れた授業の配信は、先に行ったテスト配信で体験したが、講義内容が分かりにくかった。そこで、1限目を一番早い授業時間の学校に合わせる等で全大学授業時間を揃えることはできないか。(就実大学)

(Q 2) 授業時間を統一できるのが理想だが、1限目を揃えることは出来そうなので今後検討したい。(大崎委員長)

(5) 講義配信におけるレポート回収とPCの利用について

① 講義レポートの入力と回収方法について

岡山商科大学、小松原委員から、別紙に基づき経営学特殊講義におけるレポートの入力と回収システムの運用方法及び仕様についての説明があった。

② 機器の運用について

大崎委員長から、別紙に基づき岡山商科大学で導入予定のe-Learning用PCの説明があった。

(主な質疑)

(Q 1) 平成22年度前期は15大学で同時配信ができないので、配信する大学を決めてはどうか。(大学教育連携センター 佐藤コーディネーター)

(A 1) この委員会で決めるのでは無く、それぞれの科目別に各大学で決めさせて欲しい。(大崎委員長)

(6) 平成22年度「岡山オルガノン計画」について

大学教育連携センター 佐藤コーディネーターから、以下の説明があった。

① 調書を文部科学省に提出した。

② 2台目の表示装置とカメラを7大学に導入する。そこで検証を行い、よりよい形で23年度に残りの大学に2台目の表示装置とカメラを配置する。

③ ストリーミング出来るサーバを導入する。

④ 希望大学にTAを配置する。

- ⑤ 多地点同時接続装置（MCU）を導入する。また、今後情報ハイウェイに接続することを考えて設置場所の検討を行っている。

(7) その他

本日のテレビ会議システムの利用による会議で、会議の実施が可能であることが示されたので、今後もテレビ会議システムを用いて委員会を開催することです承された。

平成22年度 双方向コンテンツ委員会 委員名簿

◎：委員長

大学名	氏名	所属・職名
岡山大学	三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授
	遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター
岡山県立大学	子野日 俊夫	デザイン学部 教授
	吉田 真智子	総務課 企画広報班
岡山学院大学	竹中 一平	講師
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長
	小松原 実	経営学部 教授、情報教育センター長
岡山理科大学	大西 荘一	情報科学科 教授
	澤原 広	学務部次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授
	虫明 基	自然科学 准教授
川崎医療福祉大学	安藤 正人	副学長
環太平洋大学	柿原 聖治	次世代教育学部 教授
吉備国際大学	佐藤 匡	社会学部 ビジネスコミュニケーション学科 教授
	今村 俊介	社会福祉学部 子ども福祉学科 講師
倉敷芸術科学大学	村山 公保	産業科学技術学部 教授
	忠政 慎也	教務部 課長
くらしき作陽大学	磯野 達也	音楽学部 准教授
	木村 万里子	食文化学部 准教授
山陽学園大学	片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授
就実大学	片岡 洋行	薬学科 教授、教務部長
	福場 光代	教務課 課長

中国学園大学	林 修	子ども学部 教授
	森 恵子	現代生活学部 教授
	福森 護	情報ビジネス学科 教授
	村松 敬生	教務課 課長補佐
ノートルダム清心 女子大学	小嶋 博巳	学務部長、文学部 教授

第1回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成22年6月4日（金） 10:40～12:10
2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室
3. 参加者 双方向コンテンツ委員会委員、連携校関係者

4. 議 題

(1) 多地点接続装置の導入について 【資料1】

(2) 平成22年度 双方向ライブ型遠隔講義用の配信機器について

- ① 機器の設置と活用
- ② 今年度の導入機器

(3) 平成22年度後期 ライブ型遠隔講義の配信準備について

① 講義の実施と方法 【資料2】

(4) 大学教育連携センター・他サテライトオフィスとの共同議題について

- ① 平成23年度ライブ型遠隔講義の科目募集
- ② 学則・規程整備の進捗確認（岡山大学オフィス実施）
- ③ ライブ型遠隔講義の授業評価アンケート（案）

【資料3】

(5) ライブ型遠隔講義の運用について

① ビデオ会議システムの使用方法 【資料4】

② ビデオ会議システム実施Q&A 【資料5】

③ 遠隔講義以外の活用

④ 6月のライブ型遠隔講義 配信・受信テスト状況 【資料6】

(6) その他

【資料1】 「多地点接続用サーバー紹介資料」

【資料2】 「平成22年度後期開講科目一覧・シラバス」

【資料3】 「ライブ型遠隔講義授業評価アンケート（案）」

【資料4】 「HDビデオ会議システム操作説明書」

【資料5】 「ビデオ会議システムQ&A」

【資料6】 「ライブ型遠隔講義配信・受信テスト日程表」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山県立大学	○ 子野日 俊夫	全学教育研究機構長、教授	○
	○ 吉田 真智子	事務局 総務課企画広報班 主事	○
岡山学院大学	○ 竹中 一平	幼児教育学科 講師	○
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	情報教育センター長、経営学部 教授	○
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	■ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
川崎医療福祉大学	○ 安藤 正人	副学長	○
環太平洋大学	○ 柿原 聖治	次世代教育学部 教授	○
吉備国際大学	○ 佐藤 匡	社会学部 ビジネスコミュニケーション学科 教授	×
	○ 今村 俊介	社会福祉学部 子ども福祉学科 講師	○
就実大学	○ 片岡 洋行	薬学部 教授、教務部長	○
	○ 福場 光代	教務課長	○
中国学園大学	○ 福森 護	情報処理センター長	○
	○ 村松 敬生	教務課 参事	×
ノートルダム清心女子大学	○ 小嶋 博巳	学務部長、文学部 教授	○

テレビ会議出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授	×
	○ 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	○
岡山理科大学	○ 大西 荘一	情報科学科 教授	×
	○ 澤原 広	学務部 次長	○
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
	■ 竹内 渉	大学教育連携センター 副センター長	○
	● 佐藤 大介	大学教育連携センター コーディネーター	○
	■ 西崎 書彦	情報処理センター 主任	○

川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	○
	○ 虫明 基	准教授	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	○
	○ 忠政 慎也	教務課長	○
くらしき作陽大学	○ 磯野 達也	准教授	○
	○ 木村 万里子	食文化学部 准教授	○
山陽学園大学	○ 片岡 武	准教授	○

第1回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成22年6月4日（金）10：40～12：10

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室

（1）多地点接続装置の導入について

標記について、大学教育連携センター 佐藤コーディネーターから、別紙資料に基づき多地点接続装置（MCU）の機能についての説明があった。また、情報ハイウェイへの接続については保留とし、MCUはBフレッツに接続することの説明があった。また、回線費用を各大学に年間6,400円／年程度の負担をお願いしたいとの説明があった。（本件は補助期間終了後も継続して必要となる経費のため、各大学経費負担）。

（2）平成22年度ライブ型遠隔講義用の配信機器について

① 機器の設置と活用

標記について、川崎医科大学 大槻委員から、講義方法の説明があった。

- （a）アノテーションは教室の学生に表示できないため、書画カメラ（OHC）を使用している。
- （b）OHCは教科書の提示に使用でき、パワーポイント画面とも切り替えが可能である。
- （c）アノテーションの代わりに、小さなホワイトボードを使用している。
- （d）機器画面の切り替えはスイッチャーを使用している。必要に応じビデオカメラも使用している。

② 今年度の機器導入

標記について、大崎委員長から各大学の設備備品に関する予算について、拠点ごとに装置の違いがあるため、拠点ごとの対応をお願いしたいとの説明があった。

（3）平成22年度後期ライブ型遠隔講義の配信準備について

標記について、大崎委員長から別紙資料の科目一覧に基づき説明があった。岡山大学が各大学の履修届の締め切りまで待つ形で進めていることの説明があった。

（4）共同議題について

① 平成23年度ライブ型遠隔講義の科目募集

標記について、大崎委員長から、各大学から1科目を提供していただきたいとの説明があった。

(主な質疑)

(Q1) 教養科目、専門科目についてはどうですか。

(A1) 教養科目でも専門科目でも良いので提供していただきたい。

(Q2) 連携委員会で、講義開始時間の問題から、当面5科目程度にするとされているが。

(A2) 代表者委員会での地域発信力についての評価があまり高いものではない。設備投資も入れているので積極的に活用するために15科目を提案している。

② 学則・規定整備の進捗確認

標記について、岡山大学 遠山委員から、学則・規程整備の進捗状況を書面で確認することの説明があり、案内及び取りまとめを学士課程委員会でおこない、必要に応じ本委員会にも連絡することとされた。

③ ライブ型遠隔講義の授業評価アンケートについて

標記について、別紙資料に基づき、ライブ科目についての授業評価アンケートを実施することの説明があり、アンケート項目についてご意見を寄せてほしいとの説明があった。

(主な質疑)

(Q1) 各大学で行っている通常の授業評価アンケートに項目を追加するのか。

(A1) 別様とし、通常の評価アンケートに追加して行う。

(5) ライブ型遠隔講義の運用について

①～④テレビ会議システムの使用方法について等

標記について、岡山商科大学オフィス 矢延コーディネーターから別紙資料4～5に基づき説明があった。後期に向けて6月中に接続テストをお願いしたいこと、通信中の操作においてプレゼンテーション機能に制限があること等の説明があった。

(6) その他

(a) 大崎委員長から、テレビ会議システムをオルガノンの他の事業でも有効に活用することについての提案があった。

(b) 大学教育連携センター 木村センター長から、6月12日の大学連携シンポジウムについての紹介があった。

(c) 大学教育連携センター 木村センター長から、テレビ会議システムを設置している講義室が他の講義で使用されるなど教室使用状況上の制限について、検討を行っていききたいとの説明があった。

第2回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成22年10月5日(火) 15:30～17:00
 2. 場 所 岡山商科大学 7号館6階762教室、各大学のテレビ会議システム設置教室
 3. 参加者 双方向コンテンツ委員会委員、連携校関係者

4. 議 題

- (1) 平成23年度ライブ科目について 【資料1】
 (2) ライブ科目に取り組む際の問題点について 【資料2】
 (3) ライブ型遠隔講義に関するシンポジウムについて 【資料3】
 (4) その他 【資料4】
 ・ライブ通信時の連絡先とチャット機能について

【資料1】 「平成23年度ライブ講義配信科目一覧」

【資料2】 「双方向ライブ講義に関するアンケート集計」

【資料3】 「遠隔講義参考資料」

【資料4】 「チャット機能の使い方と担当者連絡票」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 △：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	情報教育センター長、経営学部 教授	×
	△ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	● 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	△ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 大西 荘一	情報科学科 教授	○
	○ 澤原 広	学務部 次長	○
	△ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
川崎医療福祉大学	○ 安藤 正人	副学長	○
環太平洋大学	○ 柿原 聖治	次世代教育学部 教授	○
吉備国際大学	○ 佐藤 匡	社会学部 教授	○
	○ 今村 俊介	文化財学部 講師	×
くらしき作陽大学	○ 磯野 達也	音楽学部 准教授	×
	○ 木村 万里子	食文化学部 准教授	×
	● 加藤 充美	音楽学部 教授	○

山陽学園大学	○ 片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授	×
	● 小林 伸行	総合人間学部 講師	○
就実大学	○ 片岡 洋行	教務部教務部長、教授	○
	○ 福場 光代	学生支援課 教務担当課長	○
中国学園大学	○ 福森 護	情報ビジネスセンター 所長	×
	○ 村松 敬生	教務部 教務課 参事	○
ノートルダム清心 女子大学	○ 小嶋 博巳	学務部長、文学部 教授	×
	● 木梨 憲一	学務部 事務長	○

テレビ会議出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授	×
	○ 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	×
	● 簗島 素子	学務部 学務企画課 企画室	○
	● 小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員	○
岡山県立大学	○ 子野日 俊夫	全学教育研究機構長、デザイン学部 教授	○
	○ 吉田 真智子	事務局 総務課企画広報班 主事	○
岡山学院大学	○ 竹中 一平	幼児教育学科 講師	×
	● 友近 健一	食物栄養学科 学科長	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	×
	○ 虫明 基	自然科学 准教授	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	×
	○ 忠政 慎也	教務部 教務課長	○

第2回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成22年10月5日（火）15：30～17：00

場 所：岡山商科大学 7号館6階762教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

(1) 平成23年度ライブ科目について

標記について、別紙資料1に基づき平成23年度提供予定のライブ型遠隔講義について、各大学より提供科目に関する説明と、科目提供における学内での現状の説明があった。委員会開催時で、平成23年度の提供が決定したものは6大学9科目で、提供を検討している大学は4大学、平成24年度の提供を検討している大学は5大学となった。

大崎委員長から、平成23年度提供を検討している大学は、現段階で提供が決まっている科目と前期後期同時時間帯にならないよう配慮して提供していただきたいと

の依頼があった。

(2) ライブ科目に取り組む際の問題点について

先に連携15大学に対し、双方向ライブ講義に関するアンケートを実施し、その集計結果をまとめた資料2に基づき、大崎委員長から内容の確認と説明があった。

また、遠隔講義を実施している県立広島大学、東京農工大学、岐阜大学及び東京大学とベネッセコーポレーションの取り組みなどを例に挙げ、資料3と共に遠隔講義の運用方法について説明した件は、詳細な分析結果については、次回の委員会で報告することになった。

ライブ科目の取り組みについて、時間をかけて行う必要があること、人気のある科目を選択すること、学生への浸透のためには学生間の口コミを重視することなど、さらなる検討が必要であるとの意見が出された。

(3) ライブ型遠隔講義に関するシンポジウムについて

大崎委員長から、ライブ型遠隔講義に関するシンポジウムを平成23年2月に開催することの提案があった。上記2に例で挙げた大学や企業と開催を検討することの説明があった。今後、開催時期などについて平成22年度末又は平成23年度初頭で検討すること、各大学は学内で検討していくことになった。

(4) その他

① ライブ通信時の連絡先とチャット機能について

資料4に基づき、岡山商科大学オフィス 矢延コーディネーターから、ライブ通信時におけるコミュニケーションを円滑に行うため携帯電話等及びチャット機能を利用すること、ID、パスワード等について調査を行うことの説明があった。

第3回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成22年12月22日(水) 17:30～19:00

2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

3. 参加者 双方向コンテンツ委員会委員、連携校関係者

4. 議 題

(1) 平成23年度双方向ライブ型遠隔講義の提供科目について 【資料1】

(2) 他大学の遠隔講義の事例について

① 国公立大学 学部学生における単位互換遠隔授業 他大学の遠隔講義の事例 【資料2-1】

② 他大学の事例に関する出張報告 【資料2-2】

(3) 「配信デモ」におけるシステムの問題点について

① システムの問題点とQ&A 【資料3-1】

- ② テレビ会議システム設置教室 利用状況 【資料3-2】
- (4) 多地点接続装置(MCU)の説明と実習について
- ① MCUサーバ導入による注意事項 【資料4-1】
- ② 共有アドレス帳を使っての接続方法 【資料4-2】
- ③ パソコンの準備・多地点接続装置用サーバ操作方法 【資料4-3】
- ④ ユーザ情報入力シート 【資料4-4】
- (5) 「岡山オルガノン科目受講生募集へのご協力をお願い」について 【資料5】
- (6) その他
- 【資料1】 「平成23年度 双方向ライブ型遠隔講義の提供科目について」
- 【資料2-1】 「他大学の遠隔講義の事例」
- 【資料2-2】 「他大学の事例に関する出張報告」
- 【資料3-1】 「「配信デモ」におけるシステムの問題点について」
- 【資料3-2】 「テレビ会議システム設置教室 利用状況」
- 【資料4-1】 「MCUサーバー導入による注意事項」
- 【資料4-2】 「共有アドレス帳を使っての接続方法」
- 【資料4-3】 .. 「パソコンの準備・多地点接続装置用サーバー操作方法」
- 【資料4-4】 「ユーザ情報入力シート」
- 【資料5】 「岡山オルガノン科目受講生募集へのご協力をお願いについて」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山県立大学	○ 子野日 俊夫	全学教育研究機構長、デザイン学部 教授	○
	○ 吉田 真智子	事務局総務課企画広報班主事	×
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	情報教育センター長、経営学部 教授	○
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	■ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 大西 莊一	情報科学科 教授	○
	○ 澤原 広	学務部次長	×
	● 佐藤 大介	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	○
	○ 虫明 基	自然科学 准教授	×
川崎利用福祉大学	○ 安藤 正人	副学長	○

吉備国際大学	○ 佐藤 匡	社会学部 教授	×
	○ 今村 俊介	文化財学部 講師	○
くらしき作陽大学	○ 磯野 達也	音楽学部 准教授	×
	○ 木村 万里子	食文化学部 准教授	×
	● 加藤 充美	音楽学部 教授	○
就実大学	○ 片岡 洋行	教務部 教務部長、教授	×
	○ 福場 光代	学生支援課 教務担当課長	×
ノートルダム清心女子大学	○ 小嶋 博巳	学務部長、文学部 教授	○

テレビ会議出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授	×
	○ 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	○
	● 小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員	○
岡山学院大学	○ 竹中 一平	幼児教育学科 講師	×
	● 竹原 良記	人間生活学部 教授	○
環太平洋大学	○ 柿原 聖治	次世代教育学部 教授	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	○
	○ 忠政 慎也	教務部 教務課長	○
山陽学園大学	○ 片岡 武	総合人間学部生活心理学科 准教授	○
中国学園大学	○ 福森 護	情報ビジネスセンター 所長	×
	○ 村松 敬生	教務部 教務課 参事	○
	○ 林 修	子ども学部 子ども学科 教授	○
	○ 森 恵子	現代生活学部 人間栄養学科 教授	○

第3回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成22年12月22日（水）17：30～19：05

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

(1) 冒頭、大崎委員長から、挨拶があり、12月1日からのデモ配信について、お礼が述べられた。

(2) 平成23年度 双方向ライブ型遠隔講義の提供科目について 【資料1】

大崎委員長から、標記について、別紙資料に基づき説明があった。平成23年度双方向ライブ遠隔講義提供科目一覧について、山陽学園大学「宗教思想（講師 尾崎誠先生）、後期開講」、中国学園大学「現代子ども学入門（担当 林修先生）、後期開

講」を追加するようそれぞれの大学から説明があった。

また、別紙資料時間割についての説明があり、くらしき作陽大学「特別支援教育総論」を前期水曜日の16時50分から追加すること、岡山大学「大学と社会(予定)」については後日科目名を確定させること、川崎医科大学「個人・社会と医療考」は”（仮）”を取り、確定とすることの説明があり、講義の開始日、各大学の独自の休校日を調整する必要があるとの意見が出された。このことについて、科目が確定し次第、各大学へ確認をすとの説明があった。

(3) 他大学の遠隔講義の事例について

① 国公立大学 学部学生における単位互換遠隔授業 【資料2-1】

他大学の遠隔講義の事例

大崎委員長から、別紙資料に基づき、「北陸地区国立大学連合」の取り組みについて、以下の説明があった。

- (a) 金沢大学、富山大学、福井大学等はキャンパスが複数あり、同一大学内でも遠隔講義を行っているため受講者が多い。
- (b) 平成17年から運用しており、遠隔講義のために各大学の講義時間も統一している。
- (c) 学生の認知度が高く、オリエンテーションの必要がない。

次いで、各団体についても説明が行われた。

② 他大学の事例に関する出張報告 【資料2-2】

大崎委員長から、別紙資料に基づき、「大学連携和歌山」に関する出張報告が行われた。60～70名が履修していること、VODがライブ講義の補助的な役割で使用されていることの説明があった。

平成23年度に、岡山オルガノンについても2桁台の受講者を目指したいこと、岡山理科大学 波田学長から、受講生募集と科目提供の御礼文書が各大学に届いていることの紹介があった(議題(5))。

また、双方向コンテンツ委員会の来年度の取り組みとして、シンポジウムの実施を検討すること、岡山情報ハイウェイへの接続を検討することについて述べられた。

(4) 「配信デモ」におけるシステムの問題点について

① システムの問題点とQ&A 【資料3-1】

岡山商科大学オフィス 矢延コーディネーターから、別紙資料に基づき説明があった。MCUの設定に起因する問題については、設定を変更することで対応を行うこと、他の問題については、現在業者に対応を依頼していることの説明があった。

また、大崎委員長から、各大学から再度デモ配信の要望があり、各大学から接続するデモ期間を設けること、事務担当者だけでなく教員も使えるよう配慮の依頼があった。

② テレビ会議システム設置教室 利用状況 【資料3-2】

別紙資料に基づき、大崎委員長から説明があった。岡山商科大学では、学生を映す

カメラを別途設置するなどしている、各拠点においても使用しやすい教室を利用し
ていただきたいとの依頼があった。また、岡山商科大学では、e-Learning
用のPCを活用してレポート送信用のシステムでレポート提出できる仕組みの
紹介があり、使用方法を工夫し、利用率を上げていることの紹介があった。

(5) 多地点接続装置(MCU)の説明と実習について

① MCUサーバ導入による注意事項 【資料4-1】

株式会社プローバ岡野氏から別紙資料に基づき次の説明があった。

- (a) システム構成(MCUサーバなし)の場合、親機に対して5地点、計6地点が接続
できる。
- (b) カスケード接続を行う場合は、10地点まで接続できる。
- (c) MCUサーバの場合、サーバ上に会議室を作成し、会議室に接続する形で運用する。
- (d) MCUサーバを各大学でMCUサーバをコントロールするために、ルーターを今後
設置する必要がある。
- (e) 運用上の注意点として、MCUを利用するためのゲートキーパー入り設定のときは、
接続形態に制限が出る。

② 共有アドレス帳を使っての接続方法 【資料4-2】

資料に基づき、共有アドレス帳の使用方法について説明があった。

③ パソコンの準備・多地点接続装置用サーバ操作方法 【資料4-3】

資料に基づき、配信校になるためには、サーバを操作する必要がある、との説明が
あり、操作方法について説明があった。また、7大学までの接続であれば、従来の
接続方法が簡略であること、MCUサーバを利用するために制御するためのPCが
必要なことの説明があった。

また、Bフレッツグループで使用できるIPアドレスの数が20しか無いため、そ
の問題を解消するために各大学でルーターを導入すること、設置費用含め10万円
程度を予定していることの説明があった。

(主な意見)

- (a) MCUの管理画面には自身が議長となっているミーティング名しか表示されない。
各大学には後日用意するので議長の操作を経験して欲しい。

(主な質疑)

- (Q1) ある科目を配信する場合、各大学のリストを登録する作業は各大学か。
- (A1) 基本的な設定については、大学教育連携センター等で作業する。
- (Q1) ゲートキーパーの設定切り替えは簡単か。
- (A1) 簡単である。

④ ユーザ情報入力シート 【資料4-4】

別紙により、紹介があった。パスワードは後日知らせる。

(6) 「岡山オルガノン科目受講生募集へのご協力のお願い」について

議題4で紹介があった。

【資料5】

(7) その他

平成23年度 双方向コンテンツ委員会 委員名簿

◎：委員長

大学名	氏名	所属・職名
岡山大学	三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授 生涯学習教育連携部門長
	遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター
岡山県立大学	桂 宥子	全学教育研究機構長、情報工学部 教授
	三原 和也	総務課企画広報班 主任
岡山学院大学	竹中 一平	講師
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長
	小松原 実	経営学部 教授、情報教育センター長
岡山理科大学	大西 荘一	情報科学科 教授
	澤原 広	学務部 次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授
	虫明 基	自然科学 教授
川崎医療福祉大学	金光 義弘	学長補佐
環太平洋大学	木戸 和彦	学級経営学科 講師
吉備国際大学	佐藤 匡	社会学部ビジネスコミュニケーション学科 教授
	今村 俊介	文化財学部 アニメーション文化学科 講師
倉敷芸術科学大学	村山 公保	産業科学技術学部 教授
	忠政 慎也	学務部 教務課長
くらしき作陽大学	木村 万里子	食文化学部 准教授
山陽学園大学	片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授
就実大学	片岡 洋行	薬学科 教授、教務部長
	福場 光代	教務担当課長
	森本 達也	教務担当事務員
中国学園大学	林 修	子ども学部 教授
	福森 護	情報ビジネス学科 教授
	森 恵子	現代生活学部 教授

	村松 敬生	教務課 課長
ノートルダム清心 女子大学	小川 賢一	学務部長、人間生活学部 教授

第1回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成23年6月17日（金） 17：00～18：30
2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室
3. 参加者 双方向コンテンツ委員会委員、連携校関係者
4. 議 題
 - (1) 平成23年度後期 履修生募集のチラシ作成について
 - ① 平成23年度遠隔科目と履修者数について 【資料1-1】
 - ② 後期のチラシ作成について 【資料1-2】
 - (2) 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義の運用について
 - ① 平成24年度遠隔科目について 【資料2-1】
 - ② 平成23年度科目の提供について
 - ③ 連携大学間における非常勤講師による講義科目の提供について
 - ④ 平成24年度配信大学と受信大学における運用について 【資料2-2～2-4】
 - (3) 対面・遠隔授業に関するFD・SDシンポジウムの開催について 【資料3】
 - (4) その他
 - 【資料1-1】 「平成23年度ライブ科目・前期履修者数」
 - 【資料1-2】 「後期科目チラシ」
 - 【資料2-1】 「平成24年度提供科目」
 - 【資料2-2】 「平成24年度ライブ講義運用」
 - 【資料2-3】 ... 「双方向ライブ型遠隔講義の運用について（配信大学）」
 - 【資料2-4】 ... 「双方向ライブ型遠隔講義の運用について（受信大学）」
 - 【資料3】 「遠隔授業・FDシンポジウム企画案」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	経営学部 教授、情報教育センター長	×

	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	● 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 大西 莊一	情報科学科 教授	×
	○ 澤原 広	学務部 次長	○
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
	● 北村 光一	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	○
	○ 虫明 基	自然科学 教授	×
川崎医療福祉大学	○ 金光 義弘	学長補佐	×
くらしき作陽大学	○ 木村 万里子	食文化学部 准教授	○
就実大学	○ 片岡 洋行	薬学科 教授、教務部長	○
	○ 福場 光代	教務担当課長	○
	○ 森本 達也	教務担当事務員	×
ノートルダム清心女子大学	○ 小川 賢一	学務部長、人間生活学部 教授	×

テレビ会議出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授 生涯学習教育連携部門長	×
	○ 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	○
	● 野曾 康史	学務部 学務企画課 主査	○
岡山県立大学	○ 桂 宥子	全学教育研究機構長、情報工学部 教授	×
	○ 吉田 真智子	事務局 総務課 企画広報班 主事	×
	● 山下 祥嗣	総務課 企画広報班 総括参事	○
	● 平松 倫子	教学課 教務班 主任	○
岡山学院大学	○ 竹中 一平	講師	×
	● 友近 健一	人間生活学部 教授	○
環太平洋大学	○ 木戸 和彦	学級経営学科 講師	○
吉備国際大学	○ 佐藤 匡	社会学部 ビジネスコミュニケー	○

		ション学科 教授	
	○ 今村 俊介	文化財学部 アニメーション文化 学科 講師	×
	● 黒田 知嗣	庶務部 庶務課	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	○
	○ 忠政 慎也	学務部 教務課長	○
山陽学園大学	○ 片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教 授	○
中国学園大学	○ 林 修	子ども学部 教授	×
	○ 福森 護	情報ビジネス学科 教授	×
	○ 森 恵子	現代生活学部 教授	×
	○ 村松 敬生	教務課 課長	○

第1回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成23年6月17日（金）17：00～18：30

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

- (1) 会議に先立ち、遠隔会場（岡山大学、岡山県立大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、山陽学園大学、中国学園大学）の紹介があったが、岡山学院大学は未接続のまま開始。

前回の議事録の確認を行った。

今年度、委員のメンバーが改編されたこともあり、委員名簿の確認と出席者による自己紹介が行われた。また平成23年度双方向ライブ型遠隔講義の担当者についても確認を行った。

- (2) 平成23年度後期履修生募集のチラシ作成について

- ① 平成23年度遠隔科目と履修者数について

【資料1-1】

資料に基づき、前期の履修状況について確認を行った。連携大学全体で、受講者数は11名である。

配信大学より、これまでの状況の報告があった。

- (a) 四大学からの受講があり良かった。現時点で特に問題無く進んでいる。（岡山大学 遠山委員）
- (b) 配信トラブルはなかったが履修の申し込みに間に合わない受講生が発生し、を送って対応をした。（川崎医科大学 大槻委員）
- (c) 岡山理科大学の受講生が通学時に事故に遭い連絡がとれない時があった。その際の

対応が難しかった。(倉敷芸術科学大学 村山委員)

(d) 受講生が少ないことが問題。(くらしき作陽大学 木村委員)

受信大学より、これまでの状況の報告があった。

(e) 受信は問題ない。(岡山大学 遠山委員)

(f) 通信が途切れるなどのトラブルがあり、補講となった。今後、受講トラブルへの対応が課題。事故による補講について、事前に補講についての議論をされていて良かったと思う。(大学教育連携センター 木村センター長)

(g) 受信は問題ない。(倉敷芸術科学大学 村山委員)

② ノイズなどあるが、問題はない。(山陽学園大学 片岡委員)

以上に対し、大崎委員長から、倉敷芸術科学大学で事故後の対応が難しかった点について、対応していくとの返答があった。

後期のチラシ作成について

後期の履修生募集に伴うチラシについて、現時点での案の説明を行った。吉備創生カレッジのパンフレットをもとに作成した。

大崎委員長より、岡山大学 遠山委員に対し、教授会での議題となるので、早急に履修状況を各大学の教務課へ送るよう要請があった。

(3) 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義の運用について

① 平成24年度遠隔科目について

【資料2-1】の1. 2. 3. の内容について、議論のお願いをした。始めに「3. その他科目について」について、大崎委員長より、各大学から類似科目の提供(オムニバス形式による)や、複数大学による科目開発などの提案がなされた。また「1. 平成23年度科目の提供の可能性について」と、「2. 連携大学間における非常勤講師の講義科目の提供の可能性について」の二点についても提案がなされた。

これに対し、以下のような意見交換があった。

(a) 引き続き提供することは可能です。出張などで不在の場合、他大学の先生にお願いするなど、類似科目の提供の布石になるかと思う。(川崎医科大学 大槻委員)

(b) 2単位にすることが可能か。(大崎委員長)

(c) 川崎医科大学は1科目10コマなので、2単位にすることはできない。(川崎医科大学 大槻委員)

(d) 昨年度はくらしき作陽大学の先生にお願いして、くらしき作陽大学から配信をした。そのようなことを続けていけたらいいと思う。(倉敷芸術科学大学 村山委員)

(e) 来年度も可能か。(大崎委員長)

(f) 前向きに検討したい。(倉敷芸術科学大学 村山委員)

(g) 大槻委員の言われた内容は補講でという意味か。(くらしき作陽大学 木村委員)

(h) 違う。(川崎医科大学 大槻委員)

(i) 教養科目に限らないのであれば、持ち帰って検討したい。(くらしき作陽大学・木

村委員)

- (j) 後期に配信する岡山学は、来年度VODとして提供したいとのこと。(大学教育連携センター 木村センター長)
- (k) 持ち帰って検討したい。(環太平洋大学 木戸委員)
- (l) まだ配信が始まっていないので、後期に配信が始まってから来年度のことは検討したい。(山陽学園大学 片岡委員)
- (m) 配信を開始してから検討していきたい。(中国学園大学 村松委員)
- (n) 非常勤の先生の提供があれば、新しい方向ができる。(大崎委員長)
- (o) 今年度は提供していないが、15回というのは難しいので、複数の先生で担当するのがいいのではと思うので検討します。(岡山学院大学 友近委員代理)

② 平成24年度配信大学と受信大学における運用について

資料2-2の内容について説明し、現時点で将来構想委員会にて議論を重ねている。議論の内容では、来年度からの事業費負担について、5年から3年に変更するなどの案がでていいる。トラブルサポートについても誰が担当するかなど、今後検討していく。

(主な意見)

- (a) サポートについてはまだ検討段階だが、装置が岡山理科大学にあり、備品登録もされていることから、今後も岡山理科大学がしていくことになると思う。保守・サポート費用は各大学で分担していく予定。配信・受信の運用について、将来的に活用していきたい。(大学教育連携センター 木村センター長)

③ 対面・遠隔授業に関するFD・SDシンポジウムの開催について

資料3に基づき、企画案の説明と提案を行った。日時は10月30日、場所は岡山理科大学の理大ホールを予定している。現時点では三部構成で基調講演、事例報告、パネルディスカッションを行う予定であることを説明した。

(主な意見)

- (a) コンソーシアム京都や他のコンソーシアムでも、FD・SDの中にe-Learningについてディスカッションされている。岡山オルガノンの構築の具体的な姿であると思うので、開催の意義があると思う。(大学教育連携センター 木村センター長)
- (b) 岡山理科大学、岡山商科大学からご提案をいただきありがたい。今後、協力しながらすすめていきたい。(岡山大学 遠山委員)
- (c) 会場は場合によったら変更の可能性もある。理大ホールは500名弱入るので、他大学や他コンソーシアムを呼ぶとおもしろいものができると思う。(大学教育連携センター 木村センター長)
- (d) 配信もできればと思う。(大崎委員長)

(4) その他

① 授業評価アンケートについて

大学教育連携センター 北村コーディネーターより、ライブとVODについてアンケートの協力を要請し、実施することが決定したことを報告した。

② M C Uサーバの工事について

大学教育連携センター 北村コーディネーターより、8月の月上旬にM C Uサーバの工事を行う為、その間M C Uを使用したテレビ会議システムの利用はできないことを伝えた。工事は2日間を予定している。また日程が決まり次第、連絡をする。

第2回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成23年11月25日（金）14：30～16：00

2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

3. 参加者 双方向コンテンツ委員会委員、連携校関係者

4. 議 題

(1) 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の提供について 【資料1】

(2) 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の大学コンソーシアム岡山の単位互換科目として業務の一元化について 【資料2】

(3) 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義システムの運用について
【資料3-1】【資料3-2】【資料3-3】

(4) その他

【資料1】 「単位互換科目履修生一覧」

【資料2】 「大学コンソーシアム岡山業務の一元化」

【資料3-1】 「テレビ会議システムの活用方法」

【資料3-2】 「双方向ライブ型遠隔講義の運用」

【資料3-3】 「各大学の勤務時間と授業時間」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	経営学部 教授、情報教育センター長	×
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	● 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネ	○

		ーター	
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 大西 莊一	情報科学科 教授	×
	○ 澤原 広	学務部 次長	○
	● 北村 光一	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医療福祉大学	○ 金光 義弘	学長補佐	○
吉備国際大学	○ 佐藤 匡	社会学部 ビジネスコミュニケーション学科 教授	×
	○ 今村 俊介	文化財学部 アニメーション文化学科 講師	×
	● 黒田 知嗣	庶務部 庶務課	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	×
	○ 忠政 慎也	学務部 教務課長	○
くらしき作陽大学	○ 木村 万里子	食文化学部 准教授	×
山陽学園大学	○ 片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授	×
	● 山田 寛	教務部主任	○
就実大学	○ 片岡 洋行	薬学科 教授、教務部長	×
	○ 福場 光代	教務担当課長	○
	○ 森本 達也	教務担当事務員	○
中国学園大学	○ 林 修	子ども学部 教授	×
	○ 福森 護	情報ビジネス学科 教授	×
	○ 森 恵子	現代生活学部 教授	×
	○ 村松 敬生	教務課 課長	×
ノートルダム清心女子大学	○ 小川 賢一	学務部長、人間生活学部 教授	×

テレビ会議出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授 生涯学習教育連携部門長	○
	○ 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	×
岡山県立大学	○ 桂 宥子	全学教育研究機構長、情報工学部 教授	×
	○ 三原 和也	事務局 総務課 企画広報班 主任	○

	● 平松 倫子	教学課 教務班 主任	○
岡山学院大学	○ 竹中 一平	講師	×
	● 藤澤 克彦	人間生活学部 助教	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	×
	○ 虫明 基	自然科学 教授	○
環太平洋大学	○ 木戸 和彦	学級経営学科 講師	○

第2回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成23年11月25日（金）14：30～16：00

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

大崎委員長から、会議に先立ち、本日16時30分からの将来構想委員会、18時からの大学コンソーシアム岡山企画委員会が開催される予定であること、本委員会でも来年度の科目について審議を行い、企画会議へ諮ることについて説明があった。

(1) 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の提供について【資料1】

大崎委員長から、別紙資料に基づき、平成22年度および平成23年度の科目・受講者について説明があった。平成23年度後期のVOD科目受講者について、「レクリエーション論」にノートルダム清心女子大学から1名の受講者がいることの訂正があった。

平成24年度について、補助金の趣旨から本事業を継続していく必要があり来年度についても同様に提供していただきたいとの説明があった。ご承認いただければ、学士課程教育連携委員会から、科目の依頼が行われることの説明があった。

その他、下記の意見が出された。

岡山理科大学澤原委員から、岡山学はライブ科目からVOD科目に変更になる可能性があることの説明があった。

- (a) 吉備国際大学黒田氏から、VOD科目については教員に確認を取る必要があるが大丈夫かと思われる。ライブ科目については確認をしてみなければわからない。
- (b) 倉敷芸術科学大学忠政委員から、ライブ科目について、「倉敷まちづくり基礎論」、「実践論」は提供できると思うが、インターンシップについては再検討となる。駅前サテライトキャンパスを借りてテレビ会議システムを設置しているが、別会場を設け、提供する形となる。
- (c) 山陽学園大学山田氏から、VODは大丈夫ではないか、ライブ科目は学内で適した

ものがあるか、どちらとも持ち帰り検討を行う。

- (d) 就実大学福場委員から、平成24年度も呼びかけているが厳しそうである。VODは後期2科目を出しているが、現在の提供科目がスムーズであれば続けていきたい。ただ、1科目については機器操作の面で断られる可能性がある。
- (e) 大崎委員長から、ライブ科目については平成24年度も継続する予定である。VODについて継続できると考えられる。
- (f) 岡山大学三好委員から、ライブ型は1科目提供しているが、おそらく提供できる。VOD型についてなかなか提供できる状況にないが、進めていきたい。
- (g) 岡山県立大学平松委員から、VODとライブ科目について、まだ学内で検討しているところだ。
- (h) 岡山学院大学藤沢氏から、ライブに関しては来年度も厳しい、VODについては提供させていただきたい。
- (i) 川崎医科大学虫明委員から、ライブ科目を提供しているが、引き続き提供できると考えられる。VODについて、担当の大槻教授から可能であれば進めたい。
- (j) 環太平洋大学木戸委員から、ライブ、VODは1科目ずつ提供しているが、来年度も同じ先生でつづけていきたい。
- (k) 川崎医療福祉大学金光委員から、まだ大学の方針として確定していないが、ライブ科目の教育効果が定かでないこと、時間割の問題から受講者数も少なかったことなどの課題がある。非常勤講師のライブ科目として使用していくことについては有効だと考えている。VOD科目について担当者からやりがいがあったが成績評価が大変だった、との報告も入っている。教務担当者とも話し合い進めていきたい。

以上の意見を踏まえ、大崎委員長から、いまのところの話で5から6科目は提供いただけそうだとのおまとめがあった。岡山大学オフィスから、科目提供の依頼があると思うので、よろしくお願ひしたいとの依頼がなされた。コンソーシアムの対面型の単位互換科目でもそれほど受講者がいない。今後ライブ型とVOD型が増えてくると思うのでよろしくお願ひしたいとの依頼があった。コンソーシアムでは大学教育事業部の単位互換事業として継承を検討していることの説明があり、今年度は岡山大学オフィスから科目提供依頼を出すことを通知した。

倉敷芸術科学大学忠政委員から、土曜日に開講した場合、サテライトは受講できるのか、また場合によっては駅前のサテライトで対面で行ったほうが良い場合もあるのではないか、との質問があった。

これに対し、大崎委員長から、確かにそうしたほうがスタッフ対応の点で楽ではあるが、装置を導入しておりそれを利用していきたい。環境によっては学生アルバイトを当てて実施することも考えられる。また、簡単なマニュアルを用意し、誰でも

使える環境を構築しないと続いていけられないかもしれない。

これについて、他大学の意見は以下の通りである。

- (a) 岡山商科大学大崎委員長から、本学ではスタッフなどで対応する予定である。
- (b) 岡山大学三好委員から、学生からみた場合、土曜日は課外活動に充てている場合が多い。メリットは感じられない。講義開始時間との兼ね合いもある。
- (c) 岡山県立大学平松委員から、集中講義などが入ることもあるので、平日が望ましい。
- (d) 岡山学院大学藤沢氏から、同様に集中講義があるので平日が望ましい。
- (e) 川崎医科大学虫明委員から、特別講義が入ることがあるので難しいと思う。
- (f) 環太平洋大学木戸委員から、土曜日は補講日や通信教育のスクーリングが入っているので平日が望ましい。
- (g) 岡山理科大学澤原委員から、土曜日は補講日になっているので平日が良い。
- (h) 吉備国際大学黒田氏から、同じく平日が良い。
- (i) 川崎医療福祉大学金光委員から、同じく平日が良い。
- (j) 山陽学園大学山田氏から、同じく平日が良い。
- (k) 就実大学福場委員から、同じく平日が良い。

以上の意見を踏まえ、倉敷芸術科学大学忠政委員から、基礎論については平日でできないか検討するが、実践論については、土曜日にライブなどで実施していくように検討していきたいとの回答があった。

- (2) 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の大学コンソーシアム岡山の単位互換科目として業務の一元化について【資料2】

大崎委員長から、別紙資料に基づき、単位互換科目としての業務の一元化について説明があった。現在、コンソーシアム、オルガノンと別々に科目提供依頼をしているが、統一してほしいという依頼があった。経営学特殊講義は両方で登録しているので、対面、ライブそれぞれに受講者がいる状況である。

平成24年度「大学コンソーシアム岡山」単位互換科目に関する基本方針について、「7 遠隔型授業等については、別途、基本方針を設けることとする。」とあり、どのように対応するのか本会議で話し合い、将来構想委員会などに話をしていきたい。各大学で単位互換科目の中の遠隔講義科目として一括審議が可能かどうか諮りたい。

各大学の意見は以下の通り。

- (a) 大崎委員長から、制度変更が難しい大学があるといけないので確認をさせていただきたい。本学では一本化が望ましいと考えている。
- (b) 岡山理科大学澤原委員から、平成24年度は別々というように木村先生から聞いて

いる。教務の立場としては同じ単位互換科目として提供していただくことが望ましい。

- (c) 吉備国際大学黒田氏から、教務課に確認する必要があるが一括したほうが効率が良いと考える。
- (d) 倉敷芸術科学大学忠政委員から、一本化が良い。
- (e) 川崎医療福祉大学金光委員から、一本化が望ましい。むしろ、デメリットはあるか。
- (f) 山陽学園大学山田氏から、一本化が良い。
- (g) 就実大学福場委員から、一本化が良い。
- (h) 岡山大学三好委員から、一本化しても問題が発生するとは思えない。授業科目を提供する時に対面型、遠隔型と明記すればよいのではないか。
- (j) 岡山県立大学平松委員から、一本化が良い。
- (k) 岡山学院大学藤沢氏から、一本化が良い。
- (l) 川崎医科大学虫明委員から、一本化が良い。
- (m) 環太平洋大学木戸委員から、一本化が良い。

以上により、一本化に向けて調整を行っていくこととなった。

- (3) 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義システムの運用について【資料3】
 - ① 大崎委員長から、別紙資料【資料3-1】に基づき、双方向ライブ型遠隔科目を増やし、履修生を増やす必要があること、非常勤講師に開講科目への活用について、各大学で検討してほしいこと、講義時間について、特定の曜日時間をライブ用に各大学の時間割を空けることについて検討してほしいこと、②「非常勤講師による開講科目への活用」と③「講義時間の統一（曜日限定、夕方の時間帯、土曜日など）」が実現すれば①「双方向ライブ型遠隔科目の充実と履修生の増加」につながるのではないかとの説明があった。また、会議や打ち合わせへの利用、シンポジウムなどへの活用、学生交流活動なども始まっているので利用できないかなどの説明があった。

これについての意見は以下の通り。

- (a) 川崎医科大学虫明委員から、時間割はぴったり全部入っており、どこか特定の時間を空ける余地はない。
- ② 大崎委員長から、別紙資料【資料3-2】に基づき、遠隔講義運用のサポート体制を将来構想委員会で話し合いをしている旨、説明があった。
内容は以下の通り。
- (a) テレビ会議システムの保守については各大学の契約となっている。

- (b) 多地点接続装置の保守・サポートについて、各大学で負担をすることで将来構想委員会で検討している。
- (c) Bフレッツベーシックは各大学の回線契約となるので対応をお願いしたい。
- (d) 参画する教職員の負担について、マニュアルを配布しているが、もっと簡単なマニュアルができないか検討をすすめている。
- (e) 2から4の経費負担については、今日の将来構想委員会、企画会議で検討し、12月3日の運営委員会、1月20日の代表者会議で話し合われる。
- ③ 大崎委員長から、別紙資料【資料3-3】の通り、設置教室、勤務時間、授業時間を最終報告書に掲載する予定であることが報告された。
- 大崎委員長から、特に非常勤科目の利用については各大学で教務関係を中心に考えてほしいとの要請があり、講義時間についても同様である、との説明があった。
- これに対し、以下の意見があった。
- (a) 川崎医療福祉大学金光委員から、双方向の遠隔講義の使用については単位互換ということに限定しなくてもよいのか。
- (b) 大崎委員長から、装置は陳腐化、老朽化するので積極的に活用してほしい、その中でよい方法が見つかり次期システムの導入にもつながっていく。補助金を有効にするためにも必要なことである。県の情報ハイウェイに乗り入れ、その拠点をさらにほかの拠点が接続するなど新しい方法論が見つかるのではないかと考える。

第3回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成24年2月14日(火) 15:30~17:00
2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室
3. 参加者 双方向コンテンツ委員会委員、連携校関係者
4. 議 題
 - (1) 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の提供について 【資料1】
 - (2) 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義システムの運用について
 - ① テレビ会議システムの活用方法 【資料2-1】
 - ② 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義の運用 【資料2-2】
 - (3) その他
 - ① 大学コンソーシアム岡山の委員会委員 【資料3-1】
 - ② 平成23年度後期双方向ライブ型遠隔講義に関する調査結果 【資料3-2】

【資料1】 「平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の提供」

- 【資料 2 - 1】 「テレビ会議システムの活用方法」
 【資料 2 - 2】 「平成 24 年度以降の双方向ライブ型遠隔講義の運用」
 【資料 3 - 1】 「大学コンソーシアム岡山の委員会委員」
 【資料 3 - 2】 「平成 23 年度後期双方向ライブ型遠隔講義に関する調査結果」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山理科大学	○ 大西 莊一	情報科学科 教授	○
	○ 澤原 広	学務部 次長	×
	● 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	○
	○ 虫明 基	自然科学 教授	×
川崎医療福祉大学	○ 金光 義弘	学長補佐、エクステンションセンター長	×
環太平洋大学	○ 木戸 和彦	次世代教育学部 学級経営学科 講師	○
吉備国際大学	○ 佐藤 匡	社会学部 ビジネスコミュニケーション学科 教授	×
	○ 今村 俊介	文化財学部 講師	○
倉敷芸術科学大学	○ 村山 公保	産業科学技術学部 教授	×
	○ 忠政 慎也	学務部 教務課長	×
くらしき作陽大学	○ 木村 万里子	食文化学部 准教授	×
就実大学	○ 片岡 洋行	薬学科 教授、教務部長	×
	○ 福場 光代	教務担当課長	×
	○ 森本 達也	教務職員	×
ノートルダム清心女子大学	○ 小川 賢一	学務部長、人間生活学部 教授	×
	● 小山 洋子	学務部長補佐、人間生活学部 准教授	○
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 小松原 実	経営学部 教授、情報教育センター長	×
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	● 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○

テレビ会議システム 出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院 医歯薬学総合研究科 教授 生涯学習・教育連携部門長	×
------	---------	----------------------------------	---

	○ 遠山 和大	岡山大学オフィス コーディネーター、助教	○
岡山県立大学	○ 桂 宥子	全学教育研究機構長、情報工学部 教授	○
	○ 三原 和也	事務局総務課 企画広報班 主任	○
岡山学院大学	○ 竹中 一平	講師	×
	● 友近 健一	人間生活学部 教授	○
	■ 竹原 良記	人間生活学部 教授	○
	■ 宮崎 正博	人間生活学部 教授	○
山陽学園大学	○ 片岡 武	総合人間学部 生活心理学科 准教授	○
中国学園大学	○ 林 修	子ども学部 子ども学科 教授	○
	○ 福森 護	情報ビジネス学科 教授	×
	○ 森 恵子	現代生活学部 教授	×
	○ 村松 敬生	教務課 課長	○

第3回 岡山オルガノン 「双方向コンテンツ委員会」 議事録

日 時：平成24年2月14日（火）15：30～17：00

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

大崎委員長から、会議に先立ち、委員の方々へ一年間ご協力いただいた事に対しお礼の言葉があった。また1月20日に開催された大学コンソーシアム岡山代表者会議にて、来年度より本事業の大半が大学コンソーシアム岡山に継承されることが決定した旨の説明がなされた。本委員会は来年度より、対面・遠隔講義委員会に継承され、VODとライブを併せて検討していくこととなり、今後のご協力を要請した。文部科学省が次の予算計上を行っており、今後の補助金も視野に入れていきたいとの説明があった。

(1) 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の提供について【資料1】

大崎委員長から、別紙資料に基づき、下記の説明がなされた。

① 平成24年度の双方向ライブ型遠隔科目

前期は5大学から7科目の提供があった。岡山大学、くらしき作陽大学の科目はオルガノン時間で開講する。後期は6大学から6科目の提供があった。岡山県立大学はオルガノン時間で開講する。

② パンフレットの作成について

平成24年度も学生に講義内容を明記できるように岡山大学でパンフレットの準備をしている。新学期に向けて配布するのでご協力をお願いしたい。パンフレットの作成にあたり200字程度の概要と写真を掲載する予定である。

③ 履修者数と単位修得者数について

平成22年度は20名が履修し、13名が単位を修得した。平成23年度は11名が履修し、全員が単位を修得した。平成23年度後期は27名が履修したが、単位修得者数については現在集計中である。

(2) 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義システムの運用について【資料2】

① テレビ会議システムの活用方法について

大崎委員長から、別紙資料に基づき、下記の説明と提案がなされた。

履修学生は少ないが、テレビ会議システムの他の利用方法も進める。1. 会議、打ち合わせへの活用、2. シンポジウム等への活用、3. 学生交流活動などで活用していただきたい。学生交流活動については責任者がいないと運用が難しいが、テーマとして上げさせていただいた。

② 単位互換授業について

まずは履修生の増加を目指す。また操作する者を育成する必要がある。今後は大学職員やTAを使っていく必要がある。先生方に使っていただくためにも、もっと使いやすい仕組みが必要ではないか。FDともからめて実施するのもよい。非常勤科目として活用できないか。是非、平成25年度に向けて非常勤講師の先生方、また今この会議にご出席の先生方でも非常勤出向科目の一部を遠隔で実施していただけないか。

③ 開講日について

現在のオルガノン時間による運用のほか、曜日の限定をすることも考えられる。講義時間の16大学統一は難しい課題である。将来的には曜日の限定でもできればありがたいと考える。

④ トラブルの対応と担当窓口について

これまでは岡山商科大学オフィスで対応していたが、今後の対応については現在調整中である。テレビ会議システムの保守等について、1月20日の大学コンソーシアム岡山代表者会議において、各大学で保守サポートをお願いすることとされた。回線費用、保守費用は、現状でも各大学でお支払いいただいているものである。事業費は各大学から徴収することになっているが、双方向・VODなど全てこれまでと同様の運用は難しいと思われる。今のうちに問題点を洗い出し、マニュアル等に不備があれば対応する。

⑤ 多地点接続装置について

岡山理科大学（大学教育連携センター）に設置され、管理されている。サーバー管理のため必要な費用については岡山理科大学から各大学へ請求が行くのでよろしくお願ひしたい。各大学専用回線の保守についてはすでに各大学でお支払いいただいているとおりである。参画する教職員の負担について、今まではオフィスでサポートしてきたが、今後は各大学の職員で運用できるように移行していく。システムの簡単な運用方法を模索していく必要がある。

木村センター長より、以下の補足説明があった。

保守サポートについて、年額1大学あたり73,000円支払うと保守してもらえらる。MCUについては6,000円×12カ月である。フレッツサービスは月額8,000円ぐらいである。VPNのサービス利用のため3,920円×12カ月必要となる。これらは各大学でご負担いただくようになるのでよろしくお願ひしたい。教職員の負担はなかなか大変である。岡山理科大学のオフィスに遠隔教育の担当者を配置するのでそこを中心に取り組んでいきたい。各大学においても、配信だけでなく受信にも機器を操作していただけるような人、職員が必要となる。学生に自由に受講させるわけにはいかない。TAの雇用など、受信側でも費用が発生する可能性がある。

（主な意見）

（a）現場は知らないが教務に確認すると問題なかったようである。履修者数を増加させるために、現在提供されている科目は各大学の特長のある科目であるが、逆に各大学が取らせたいという科目でなくなる傾向があるのではないか。各大学が必要としている科目についての調査を行ってみてはどうか。（山陽学園大学・片岡委員）

これに対し、大崎委員長より以下の提案がなされた。

ご協力いただけるようであれば、次の委員会（委員長大学がどこになるか未定であるが）までの間に実施してもよいか。委員会として実施の方向であればフォーマットを作成し、ご確認いただいたうえで調査を行ってはどうか。

（b）調査というのは学生に調査ではなく、大学教職員ということか。（中国学園大学）
大崎委員長より以下の回答がなされた。

学生がいない時期であるので、大学職員・教員への調査である。

参加大学によって先の提案が了承され、調査を実施することになった。

（3）平成23年度後期双方向ライブ型遠隔講義に関する調査結果【資料3-2】
矢延コーディネーターより、資料に基づき以下の説明がなされた。

主なトラブルとして、通常の担当者でないものが使用した際に設定が変更されていることがある。必ず講義が始まる前に確認をしていただきたい。講義開始までにトラブルが解決せず配信できなかったこと、補講についてどうするかという話をしたこともある。

本日から3月23日まで双方向ライブ型遠隔講義の配信テストを実施する。種々のトラブルを防ぐためにも配信テストにご参加いただきたい。

(4) 大学コンソーシアム岡山の委員会委員

大崎委員長より、資料に基づき説明がなされた。

これまで、大学コンソーシアム岡山は企画委員会で計画・実施していたが、今後は委員会で実施していくことになる。委員会の回数が増えるなど考えられるが遠隔講義システムを利用していただきたい。

大学教育事業部は、単位互換委員会と対面・遠隔講義委員会である。対面・遠隔講義委員会は、e-Learning 運営委員会と双方向コンテンツ委員会の委員から選出いただければと思う。

今日の会議では、対面・遠隔講義委員会の委員について、e-Learning 運営委員会と双方向コンテンツ委員会に出席している先生のどなたかにお願いしては、と考えているので、別紙に各委員会の名簿を添付している。この資料によると両委員会はメンバーが重なっている部分が多いのでうまく移行できるのではないかと考えている。

木村センター長より、以下の補足説明があった。

この場でオルガノン3年間のお礼を述べさせていただきたい。また、今後どのように大学コンソーシアム岡山に事業を継承していくかということに取り組んでいる。

1月20日の大学コンソーシアム岡山代表者会議でも継承が承認されたので進めているところである。来年度の会長校が岡山理科大学ということになったので学長以下体制作りをしている。すでに平成24年度の単位互換などについては進めているところである。単位互換などの事業については、実際に統合されて動くのは平成25年に向けてということになる。今後岡山の教育全体の事を考え、良いものにしていく必要がある。そのために e-Learning 運営委員会と双方向コンテンツ委員会の両委員会を統合する趣旨である。各大学から必ず1名の委員を出していただきたい。今後2月27日に e-Learning 委員会も開催する予定としている。

最後に大崎委員長より、3年間の協力に対しお礼の言葉があった。

連携校 15 大学のテレビ会議システム設置教室

大学名	教室名	収容人数
岡山大学	一般教育D棟1階 岡山オルガノン 岡山大学オフィス	5 - 6
	一般教育D棟1階D11教室	6 2
	一般教育D棟1階D12教室	7 8
岡山県立大学	学部共通棟北2階8203教室	1 0 0
岡山学院大学	情報処理教育センターD302号室	2 0 7 (1 5 0)
岡山商科大学	7号館7階772教室	2 2 8
	7号館7階771教室	2 0
岡山理科大学	[配信]専門学舎11号館5階実習室	1 1 6
	[受信]専門学舎11号館5階インターネット端末室1	1 2
川崎医科大学	医大校舎棟7階M-702講義室	2 3 2
川崎医療福祉大学	本館棟7階7301教室	6 0
環太平洋大学	1階IPUシアター	2 0
吉備国際大学	10号館1階大講義室10110	2 1 0
倉敷芸術科学大学	[対面授業の教室] 国際学術交流センター多目的室	2 0
	[他大学の講義を受信する教室] 2号2階2203講義室(主に使用)	1 4 6
くらしき作陽大学	6号館101室	1 7 0
	6号館102室	1 4 7
	1号館125室	2 2 0
山陽学園大学	本館4階404小講義室	3 5
就実大学	A館201会議室	5 0
中国学園大学	12号館4階M-406教室	1 0 8
ノートルダム清心女子大学	附属図書館3階309L	2 0

岡山大学



岡山県立大学



岡山学院大学



岡山商科大学



岡山理科大学



川崎医科大学



川崎医療福祉大学



環太平洋大学



吉備国際大学



倉敷芸術科学大学



くらしき作陽大学



就実大学



山陽学園大学



中国学園大学



ノートルダム清心女子大学



平成23年度 「大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウム」

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業『岡山オルガノン』の構築において、学士力・社会人基礎力・地域発信力を高めるための事業を県内15大学が連携して行っている。本事業では、岡山県内15大学が連携して新しいメディアによる遠隔授業システムとして導入した双方向ライブ型遠隔授業及びVideo On Demand(VOD)方式によるe-Learningを利用して、平成22年度から遠隔授業を実施しており、学生は他大学の科目を所属の大学で受講して単位を修得できる仕組みとなっている。また、教職員の資質や能力の向上を目指したシンポジウムや講習会を実施しており、さらに、各連携校で行われているFDやSD活動の情報や成果の共有を可能とし、どの連携校の活動にも参加できる環境を整えている。本取り組みは、遠隔授業などの教育支援だけではなく、単位互換科目の充実や教職員や学生の交流を深化させていくために重要なコミュニケーションを支援する役割を果たし、大学間連携の充実化と円滑な継続を図っている。

このシンポジウムでは、「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」をテーマとした基調講演と「様々な授業形態から効果的な授業を考える」とのテーマによる事例報告を各担当教員から行った。

事業の概要は次の通り。

1. 名称：「大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウム」
2. 目的：講演者・報告者・参加者の皆さまとの意見交換や議論を通して、遠隔授業の特長と魅力を広く公開し、遠隔教育啓発への意識を高める。
3. 開催日時：平成23年10月30日(日) 13:00～15:40
4. 会場：岡山理科大学 25号館 8階 理大ホール
5. 参加者数：116名
(一般：10名、学生：7名、大学教員：51名、大学職員：48名)
6. 主催：岡山オルガノン
7. 内容：以下の通り。

〔第1部：基調講演〕

テーマ：「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」

講演者：青野 透 氏（金沢大学 教授）

〔第2部：事例報告とフロアディスカッション〕

テーマ：「様々な授業形態から効果的な授業を考える」

報告者：有澤 恒夫（岡山大学 准教授）

大槻 剛巳（川崎医科大学 教授）

大西 荘一（岡山理科大学 教授）

コーディネーター：和賀 崇（岡山大学 准教授）

8. 成 果:

本シンポジウムでは、116名の一般市民、教職員、学生、連携校関係者が参加した。第1部の基調講演では、金沢大学の青野透教授が、「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」というテーマで「クリッカー」を使用した独自の講義スタイルやインターネットを利用した教員、学生間のコミュニケーションの重要性、活用の有効性等について講演された。第2部の事例報告では、「様々な授業形態から効果的な授業を考える」というテーマで対面型、双方向ライブ型、VOD型授業を担当している連携校3大学の先生から発表が行われ、各授業方式における教育の質向上に果たす役割や具体的な活用報告等、興味深い報告がなされた。参加者アンケートの回答では、「教員がどのように授業を考えているのかを知られてよかった」、「eラーニングの導入を検討している為大変参考になった」等意見や感想をいただいた。

よって、今回のシンポジウムでは遠隔授業への理解を深めることができ、参加者から今後の大学教育に対する期待と示唆を得ることができた。

9. 収支決算書

収 入		支 出	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
大学教育改革推進等補助金	364,996	雇用等経費	
		・学生アルバイト代	23,400
		委託費	
		・白布クリーニング代	1,260
		・会場清掃費	29,000
		印刷製本費	
		・ポスター(A2版、60部)	100,800
		・チラシ(A4版、13,000部)	163,800
		通信運搬費	
		・ポスター送料	11,760
		・チラシ送料、出演依頼状他	33,976
		会議費	
		・飲料水(10本)	1,000
計	364,996	計	364,996